

---

# 世界最高の魔導師

透明な石

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

世界最高の魔導師

### 【Nコード】

N9146P

### 【作者名】

透明な石

### 【あらすじ】

魔法によって人々が生活する世界での超大国クリストラの唯一の魔導師ジュリア。彼女は現代から少年を召喚する。だが、その少年は国王であるマリエルに一目ぼれをする。面白くないジュリアだが、少年との交流で少しずつ彼にひかれていく。

薄暗い部屋に、均等に配置されたるうそくの光だけがほのかに揺れている。

湿度が高くて、埃っぽいこの部屋は宮廷魔導師である私にあてがわれた屋敷の地下室だ。

左手の腕時計はすでに夜明けを示しているが、地下室にいる以上そんなことは関係ない。

私は手に持っていた小瓶を大きく振って、中の水を目の前の魔法陣に振りかけた。その水は、魔法陣に触れた瞬間にジュツと鋭い音をたてて消えた。

準備万端…

そう確信すると、魔法陣の前に立ち構える。一瞬で薄暗い部屋が光で満たされる。魔力に満ちた魔法陣を眺めながら、呪文を唱える。

「我、世界の調整者なり。神の代弁者として、この世界の变革を望み、……」

何が世界の調整者だろうか、笑えてくる。世界の变革を望む？私が望んでいるのは、そんな偉大なことじゃない。

「有の理、無の理、空の理。全ての定めを打ち破り、その永久なる業を負うことを誓う。無謬なる扉をこじ開ける」

これは、私の遊び。

「召喚　…！」

どーんー！！

こんな爆発音が大陸一の国土を持つ宮殿からすれば、それはもう大

騒ぎになる。

いや、本当に。

「ウギヤ」

バサバサバサ

間近で爆発が起きたせいで、吹っ飛ばされたのに加えて、本棚の本が雨のように降り注いできた。おかげで頭も耳も腕も腰も…平たく言えば体中が痛い。もともと物置同然の地下室は未曾有の地と化していた。一瞬この部屋の真上に位置する自分の部屋のことが頭によぎったが、それどころではなくなった。

「ジュリアー！！！！！」

扉が開く音とともにものすごい声が地下室に響いた。こっつて音響いいのか。

その声の主なら姿を見なくてもわかった。金色の髪に翡翠の瞳をした、これ以上ないってほどの別嬪さんで、この城のある主であり、私の…

それはともかく、返事をしようと思ったが声が出ない。とりあえず、辺りに舞い散る埃だけでもどうにかしようとして、指先で風の魔法を唱える。

視界が開ける。

部屋の中央に人影が浮かび上がる。その様子を先ほど部屋に飛び込んできた彼女と一緒に眺める。目を丸くして状況を見ることしかできない彼女と違って、私は口元が上がるのを抑えられない。そこに立っていたのは黒い服を着た少年だった。

彼は何が起きたか分からず、不安げな顔をして辺りをきよろきよろ見渡している。

そして、部屋の扉の前で呆然と立つ金色の髪をした美女を見ると頬を染めた。

あれ？

…私無視？一瞬彼の視野に入ったかと。確かに本に埋もれた女なんて見逃しちゃうかもしれないけど……

「阿谷師意摸野出葉亜李間選」

さっぱり理解できん。

彼の使用言語は何やらこの大陸の言語とはかけ離れているものようだ。知っている単語もなければ規則性すら分らない。それでも彼は一生懸命金髪美女に話しかけているが、彼女の頭の上にははてなマークが大きく出ている。困ったように彼女が私の方に目線を泳がす。

「マリエル、そんなに警戒する必要はないよ」

かっこよく立ち上がったと言いたかったが、なにせよ腰が痛い。腕に力を入れようとしても、周りの本が崩れていって、支えにもならない。首だけ彼女に向ける。

「ジュリア、何があつたの？その体はどうしたの？それにこの人だれ！！」

「落ち着いて、できたら、私を起こしてほしいんだけど」

手をひらひらさせて、呼ぶとマリエルは、いまだになにやらわめいている少年を警戒しながら、私の方に向かっていった。その行動にようやく私の存在に気付いた彼は、マリエルよりも早く私の方に近づき、手を差し伸べた。以外に気がきくなあと思ってその手を取ろうとしたとき、彼は足元に落ちていた本に躓き、私の方に突っ込んできた。

むに



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9146p/>

---

世界最高の魔導師

2011年5月21日12時54分発行